

展覧会プレスリリース

自然を
創る create nature

SHINNO Hiroshi

新野洋

西澤伊智朗

NISHIZAWA Ichiro

2022.4.22 | 金 |

2022.8.28 | 日 |

<開館時間>平日/10:00~17:30(最終入館17:00)土日祝/10:00~17:00(最終入館16:30) <休館日>月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し翌平日休館)※ゴールデンウィークの前後(4/26~5/8)とお盆の前後(8/9~8/21)は休まず開館 <入館料>一般1,300円(10名様以上1,100円)、小・中・高生500円、小学生未満 無料 *各種障害者手帳をご提示の方とその同伴者1名様は1,100円 <主催>ヤマザキマザック美術館、中日新聞社 <協力>株式会社カセットミュージアム <後援>愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団



音声ガイド
無料サービス

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、会期等が変更となる場合があります。最新情報につきましては当館ホームページの「新着情報」欄でご確認ください。

M ヤマザキマザック美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

〒461-0004 愛知県名古屋市東区築1-19-30
TEL : 052-937-3737 / FAX : 052-937-3789
<http://www.mazak-art.com>

新野洋《進化のパスル》2019年(部分)
西澤伊智朗《彷徨の先に残されたものは》2021年(部分)

しんのひろし にしぎわい ちろう
特別展「新野洋×西澤伊智朗 自然を創る」

1. 会期：2022年4月22日(金)～8月28日(日)
2. 会場：ヤマザキマザック美術館
461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30 電話 052-937-3737 FAX 052-937-3789
3. 開館時間：平日10：00～17：30（※土日祝は17：00まで ※入館は閉館の30分前まで）
4. 休館日：月曜日（※5月2日、7月18日、8月15日は開館）、7月19日(火)
5. 入館料：一般1,300円(10名様以上1,100円)、小・中・高生500円、小学生未満無料
〔音声ガイド無料サービス〕
6. 主催：ヤマザキマザック美術館、中日新聞社
7. 協力：株式会社カセットミュージアム
8. 後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会、
公益財団法人名古屋市文化振興事業団
9. 展覧会担当学芸員：坂上しのぶ Shinobu_Sakagami@mazak.co.jp
広報担当：西川由佳里 Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp
11. 記者発表会：2022年4月22日(金) 14：00～15：00 (13：45より1階で受付開始)

～ ガイドツアー ～

当館学芸員によるガイドツアー。展覧会の見どころをわかりやすく解説します。

参加無料 ※要当日鑑賞券 / 予約不要 / 定員 10名(先着順)

日時：会期中の第2・4土曜日 10：30～11：30

(4月23日、5月14日、5月28日、6月11日、6月25日、

7月9日、7月23日、8月13日、8月27日)

*新型コロナウイルス感染防止対策として、美術館入口での検温、マスクの着用、ソーシャル・ディスタンスの保持にご協力ください。

*新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはやむなく中止する場合があります。最新情報につきましては当館ホームページの「新着情報」欄でご確認ください。

出品作家プロフィール

新野 洋（しんの・ひろし） は1979年生まれの現代美術作家です。アトリエがある京都府南山城村周辺の里山などで採集した植物を、シリコンゴムで型どりして、合成樹脂を流し込み部品を制作。それらを彩色し、組み立てて、未知なる生き物のかたちをつくりあげています。それらはまるで実在する生物のようなリアルさを持ち合わせています。近年は、流木や動物の骨などのかたちを利用した巨大な作品をつくり、発表しています。

西澤 伊智朗（にしざわ・いちろう） は1959年生まれの陶芸作家です。大地の風合いを感じさせる土肌の作品をつくっています。長野市七二会なにあいの山中にアトリエをもち、冬虫夏草や廃墟、朽ち果てた果実などの存在やかたちに着想を得たというそれらは、作家のうちに沸き起こるとめどもない表現への欲求から生み出されました。粘土は自身を映し出すようなものだと西澤は言います。

みずみずしく透明感あふれる新野のアクリル樹脂の素材感と、荒々しくも素朴な西澤の陶土—20歳差のふたりが創り出すそれぞれの自然のかたちをお楽しみください。

新野 洋

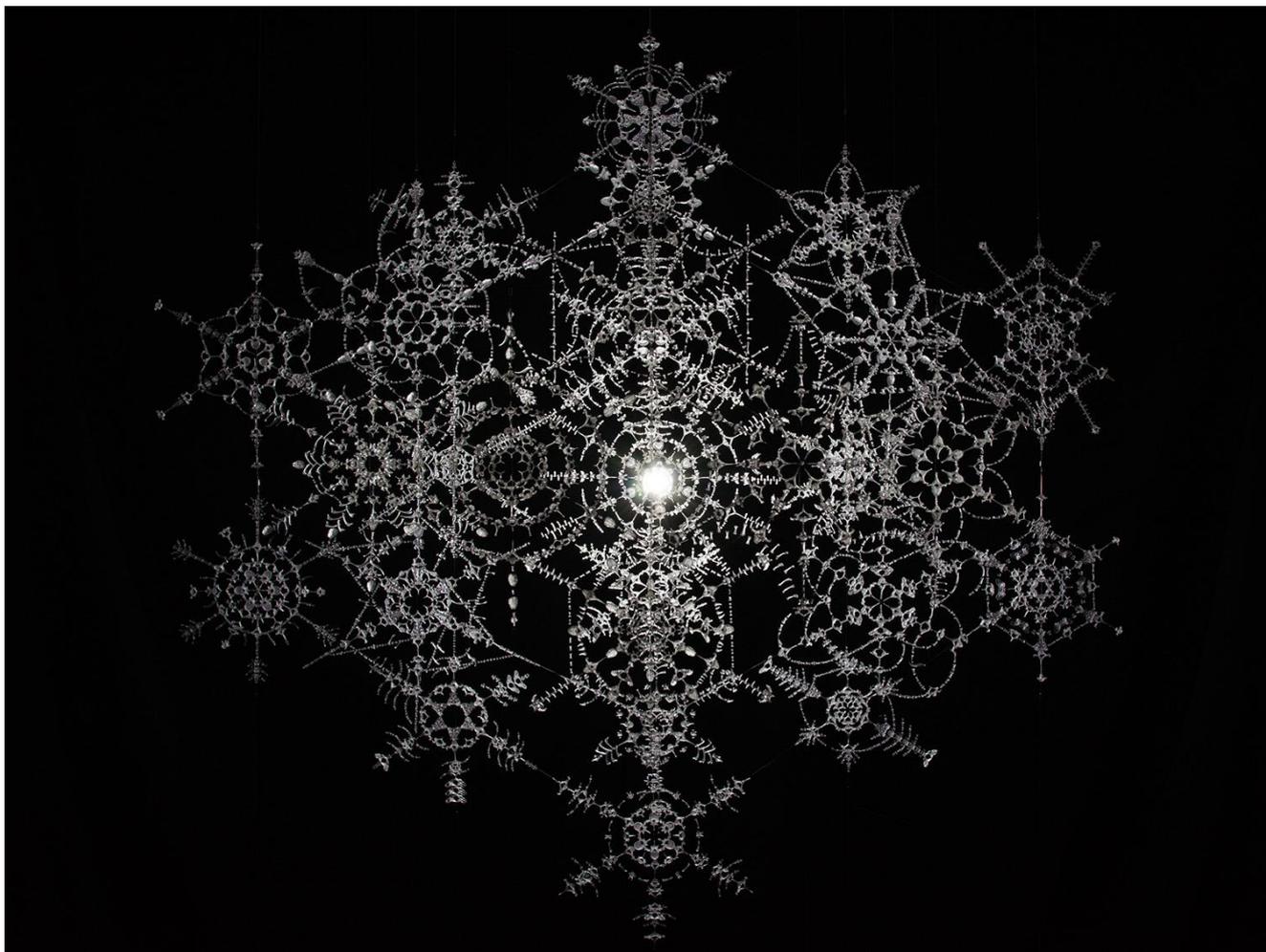
1979年12月 京都府に生まれる
 2003年 京都造形芸術大学 洋画科 卒業
 2008年 ウィーン美術アカデミー
 （Akademie der bildenden Künste Wien）卒業
 2009年 南山城村にアトリエを持ち現在に至る



西澤 伊智朗

1959年4月 長野県に生まれる
 2000年 長野市七二会に築窯 現在に至る

新野洋 《進化のパズル (2019. 8. 28, Niigata. Japan) 》



《進化のパズル (2019. 8. 28, Niigata. Japan) 》 2019年↓(部分)



基になったかたちは、ニホンザル、アナグマの骨。
2018年、新潟県松之山、山間地より採取。

「骨の造形は美しく、一つひとつが別の生物のように、個性
的で面白い。生存のために磨かれたかたちは妖しく輝い
ていた。」

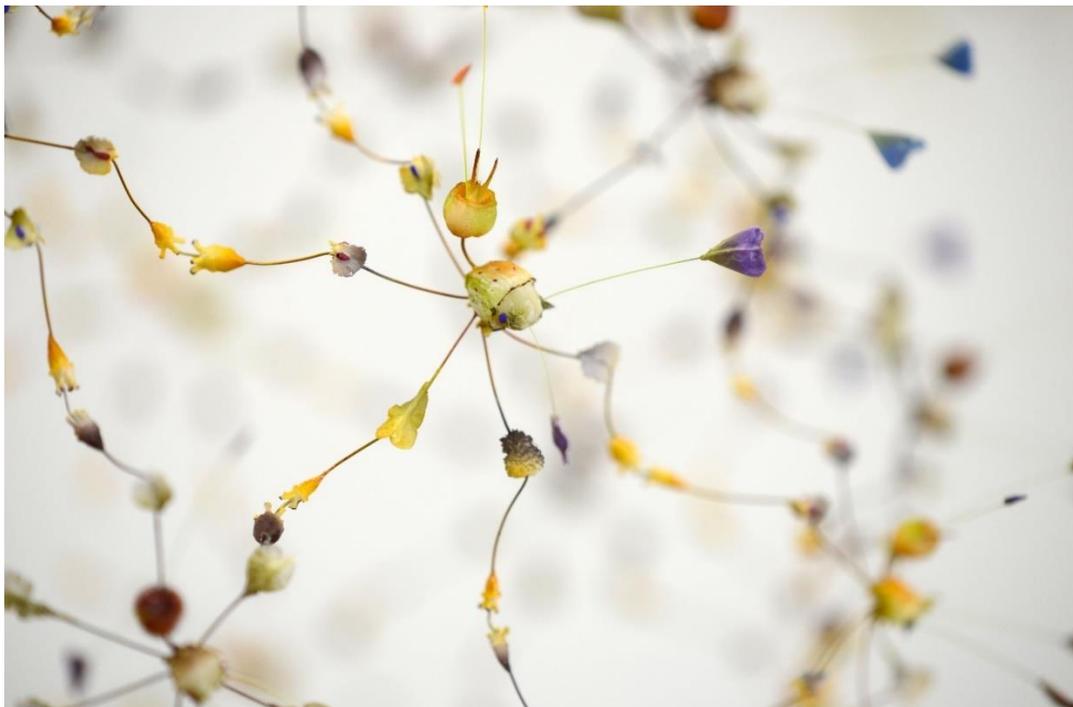
(新野洋コメント)

新野洋 《生命の房》 2013年～



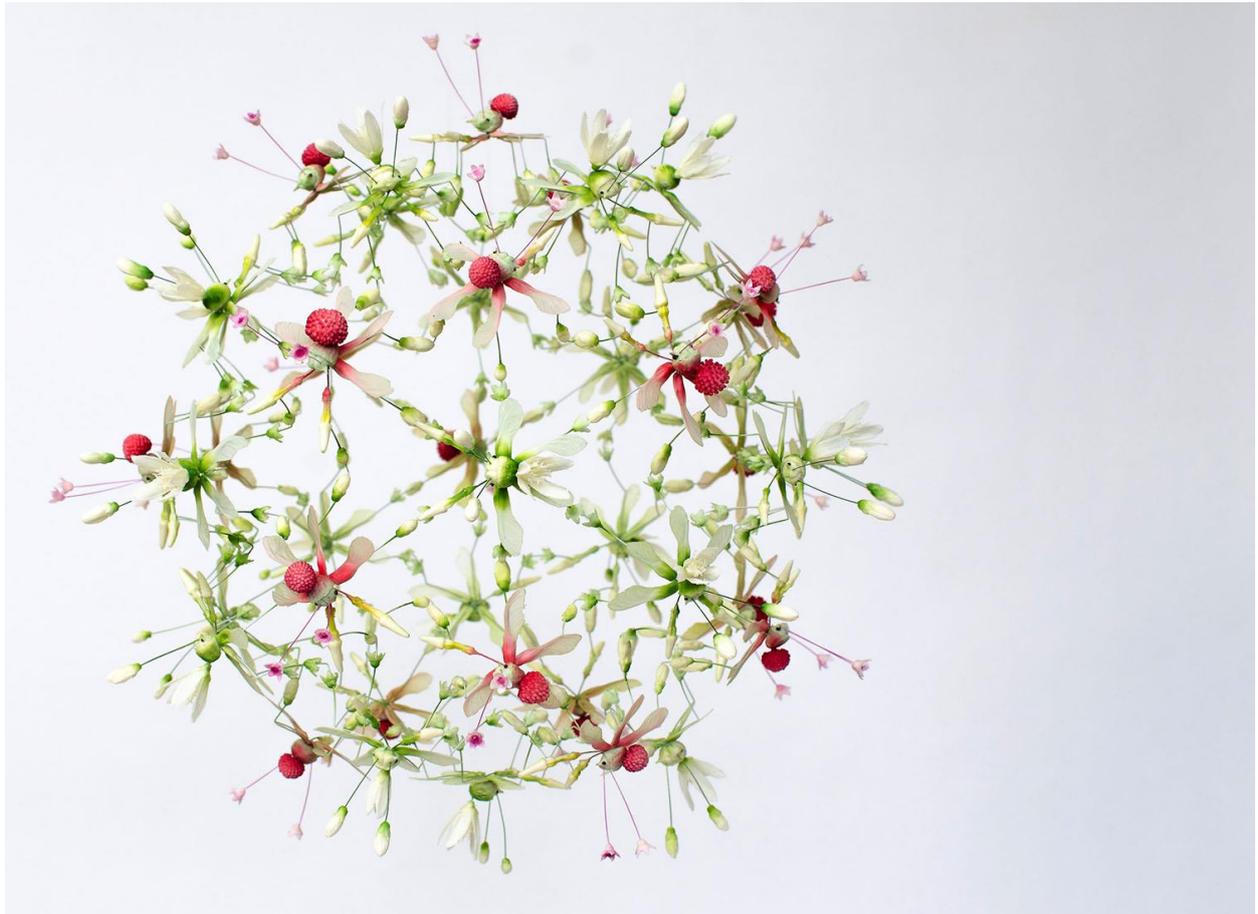
基になったかたちは、アトリエ周辺の草の種、花など。京都府南山城村、山間の里山より採取。

《生命の房》2013年～ ↓(部分)

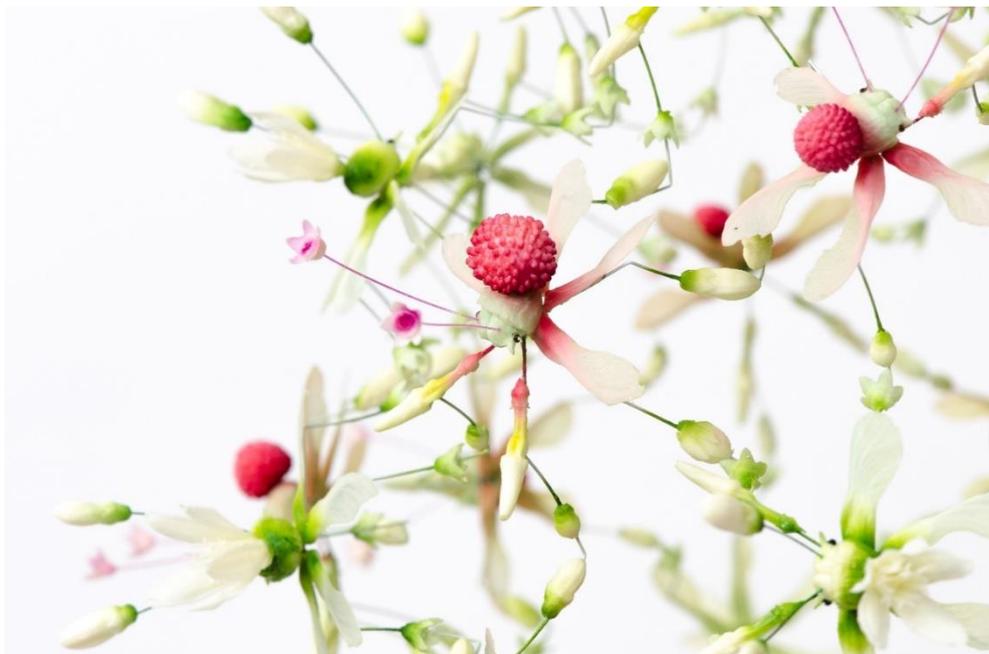


ミクロとマクロの世界

《生命の房 (2021. 6. 22, Kyoto. Japan) 》 2021 年



《生命の房 (2021. 6. 22, Kyoto. Japan) 》 2021 年 ↓ (部分)



新野洋 《2012. 3. 18, Kyoto. Japan》 2012 年



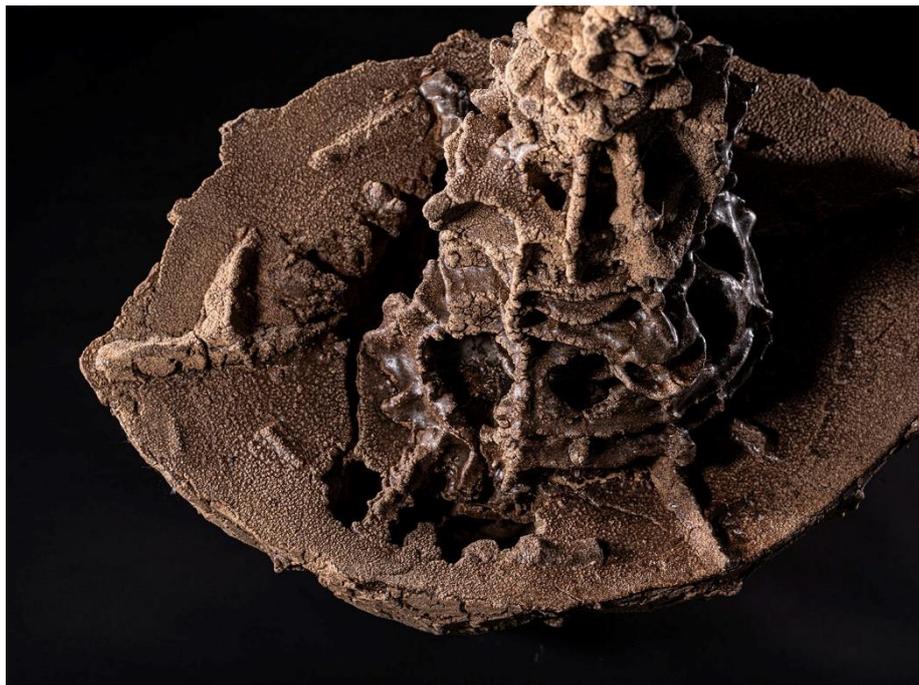
《2012. 3. 18, Kyoto. Japan》 2012 年 ↓ (部分)



西澤伊智朗 《彷徨の先に残されたものは》 2021 年



《彷徨の先に残されたものは》 2021 年 ↓ 部分





西澤伊智朗《夕暮れの世界連鎖 2020》2020年



西澤伊智朗《彷徨の先に》2020年



西澤伊智朗《静寂と喧騒の狭間で 19-A》2019年



西澤伊智朗《夕暮れの世界連鎖 18-1》2018年

特別展「新野洋×西澤伊智朗 自然を創る」(2022/4/22~8/28)
 情報掲載用画像・読者プレゼント用招待券利用申込書

- ・「新野洋×西澤伊智朗 自然を創る」展の情報掲載の際に、下記の画像をご使用いただくことができます。
 ※展覧会終了後は使用することができません。
- ・画像をご使用の際は必ずキャプションを併記願います。
- ・画像はトリミングや字のせなどの加工をせずにそのままの形でお使いください。

貴社名	ご担当者名		
媒体名	<input checked="" type="checkbox"/> をご記入ください。 <input type="checkbox"/> 紙媒体 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他 ()		
画像番号	次ページの画像一覧をご参照のうえ、掲載を希望される画像の番号に○をお付けください。 申込書を担当者が確認した後、データをご提供させていただきます。		
	1	2	3 4 5 6 7 8 9 10
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL	FAX	MAIL
ご掲載予定日	*保管用に見本誌を1部お送りいただけますと幸いです。		

- ・画像を使用して展覧会情報をご掲載いただける場合、読者プレゼント用に招待券をご提供可能です。
 下記に○を付けてご回答ください。

→ 招待券の提供を (希望する ・ 希望しない)
 ↳ 必要枚数は (3組6名分 ・ 5組10名分)

掲載用展覧会概要文

*記事作成の際にご活用ください。

[300文字程度]

新野 洋^{しんの ひろし}は1979年生まれの現代美術作家です。アトリエがある京都府南山城村周辺の里山などで採集した植物を、シリコンゴムで型どりして、合成樹脂で型出した部品を彩色し、組み立てて、未知なる生き物のかたちをつくりだしています。

西澤 伊智朗^{にしざわ いちろう}は1959年生まれの陶芸作家です。長野市^{なにかい}七二会^{なにかい}の山中にアトリエをもち、冬虫夏草や廃墟、朽ち果てた果実などに着想を得て、大地の風合いを感じさせる土肌の作品をつくっています。

みずみずしく透明感あふれる新野の亚克力樹脂の素材感と、荒々しくも素朴な西澤の陶土—20歳差のふたりが創り出すそれぞれの自然のかたちをお楽しみください。

[100文字程度]

1979年生まれの新野洋と1959年生まれの西澤伊智朗の二人展。みずみずしく透明感あふれる新野の亚克力樹脂の素材感と、荒々しくも素朴な西澤の陶土—20歳差のふたりが創り出すそれぞれの自然のかたちをお楽しみください。

お問い合わせ先：ヤマザキマザック美術館 企画課 広報担当 西川 由佳里
 TEL 052-937-3737 / FAX 052-937-3789 / MAIL Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp

*ご記入いただいた個人情報は、本件における諸連絡または今後の催事情報のご案内のみに使用し、許可なく第三者に開示することはありません。

1		6	
キャプション		キャプション	
新野洋 《進化のパズル(2019.8.28,Niigata.Japan)》 2019年		西澤伊智朗 《夕暮れの世界連鎖 2020》 2020年	
2		7	
キャプション		キャプション	
新野洋 《生命の房》 2013年～		西澤伊智朗 《彷徨の先に》 2020年	
3		8	
キャプション		キャプション	
新野洋 《生命の房(2021. 6. 22, Kyoto.Japan)》 2021年		西澤伊智朗 《静寂と喧騒の狭間で 19-A》 2019年	
4		9	
キャプション		キャプション	
新野洋 《2012. 3. 18, Kyoto.Japan》 2012年		西澤伊智朗 《夕暮れの世界連鎖18-1》 2018年	
5		10	
キャプション		キャプション	
西澤伊智朗 《彷徨の先に残されたものは》 2021年		作家ポートレート	

美術館ご紹介

ヤマザキマザック美術館は、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール、シャルダンといったフランスのオールドマスターをはじめとするロココの時代から、ロマン主義を代表するドラクロワ、新古典主義のアングル、写実主義、印象派、エコール・ド・パリ等、18世紀から20世紀に至るフランス美術300年の流れを一望する構成となっています。

また19世紀末にフランスを中心に花開いたアール・ヌーヴォーの代表的な作家であるガレをはじめとする、様々な作家達のガラス工芸品、家具を展示しています。

棚や椅子、テーブル、暖炉、壁面フレームと一部屋まるごと完備したアレクサンドル・デュマのダイニングルームをはじめ、マジョレルやガレといった作家たちの家具は、往時の雰囲気そのままに、部屋を訪れたお客様が、ゆっくりと作品に向き合えるよう心がけて、展示しています。ガラス工芸においては、工芸の枠を超えて芸術表現に挑んだガレの晩年の作品を多数所蔵しており、その充実した作品群は、日本の美術館が所蔵するガレのコレクションの中でもとりわけ注目される存在です。

